

令和元年度 学校関係者評価実施報告書（まとめ用）

学校番号	34	学校名	静岡高等学校	記載者	中根 正裕
------	----	-----	--------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価	意見
ア	毎日の学習及び生活のリズムを確立する	<p>○「規則正しい生活をしている（生活のリズムを確立している）」と自己評価する生徒70%以上</p> <p>○あいさつができる生徒の育成</p>	B	B	<p>○生徒のアンケートから、成果目標は62%であり、その大きな原因として、スマホの使用に関する点に関して、生徒自身に考えさせて行動する指導が成されているという説明であったが、今一度検証し、できれば、生徒が本気で取り組む方策を見出すことを期待する。他県・他校の有効な実施例もあるので、参考にされたら良いのでは。</p> <p>○「挨拶」に関しては、身だしなみ、マナーと併せて、将来を担う「周囲から信頼される大学生・社会人」に不可欠。静高生のさらなる向上を切望する。</p> <p>○毎日の学習及び生活のリズムを確立することが目標ではなく、目的を達せられるように、学習するパターンや生活のリズムを自ら考え、実践できるようになることこそが、実社会で必要なことであろう。3年間同じリズムで生活するのは不自然です。</p> <p>○生活のリズム作りの一環として挨拶を励行するという目標を持ち出したのは、いかにもで、静高の目標としては浅はかな感じがします。</p> <p>○挨拶等の基本的姿勢については、まだまだ改善の余地があると思います。</p>
イ	「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を推進し、知的好奇心を喚起する	<p>○授業を大切にする生徒、主体的に学ぶ生徒の育成</p> <p>○「授業の内容がよくわかる」と自己評価する生徒80%以上</p>	A	A	<p>○学校評議員会当日の授業見学からも感じたが、全教室への固定式プロジェクタの設置と活用、AL10に代表されるグループ学習・ディベートへの取組など、授業改革が着実に進んでいる印象が強く、成果は評価できる。私見ではあるが、「生徒の脳がたくさん汗をか</p>

				<p>くような授業」こそが良い授業で、その最大効果が期待できるような授業の綿密な準備を行うことが、教師に求められる姿。その点AL10は絶妙といえる。例えば、じっくり考えさせる内容とタイマーを活用して短時間に的確な回答を求める内容を使い分けるようなメリハリのある授業が、スタンダードに見られると嬉しく思う。</p> <p>○高きを仰ぐ精神で言えば、知的好奇心を喚起することこそが、大切な目標であり、授業がわかるとか、大切にするとかが評価の尺度にはならないのではないのでしょうか。好奇心の喚起を、指導要領で教える内容を定められた授業内でいかに達成できたか、を評価する方法を具体的に考えたほうがよいと思います。アンケート#16(静高では知的好奇心を喚起する授業が行われている)ではなく。</p> <p>○参観させていただきましたが、私が静高生の時と比べて大幅に授業を受ける姿勢がすばらしくなったと感じました。</p> <p>○数学における集団的な討議など踏み込んだ改革がなされていることが実感できた。</p>
ウ	<p>低学年より高い志の育成に努め、進路実現を図る</p>	<p>○進路行事実施後の進路意識の向上 ○第1志望(3年次当初)の大学に出願する生徒の割合70%</p>	B	<p>○多様な生徒に対応するためにも、現行の「進学重点コアスクール」「WWL事業」等の多くのメニューの継続と推進は、低学年からの志の育成に好影響と考える。効果の検証と改善が課題。</p> <p>○進路課長からの説明からも感じたが、第一志望を下げずに自身の学力向上に力点を置く指導には賛成するが、目標の70%に対して現実には46%。このギャップをどう分析し、どう対応するかが、今後の静高の価値・輝きに大きく影響する気がする。</p> <p>○静高生を教える先生は、自分の出身大学と自分の進んできた道を自信を持って語れますか。大学関係ないと思いませんか?大学は目的ではなく、人生を全うす</p>

					<p>る手段の一つです。</p> <p>自分の歩んだ道を人として誇れる（自慢ではありません）ような人生を歩むことが高きを目指すことではないでしょうか。くらいのことを、低学年には吹き込んでほしい。そのうえで、人生の目的達成のためには、高い偏差値の学校を目指すといい(有利)ですよ、くらいの指導でいいのではないですか？</p> <p>○文系、理系のみならず、どんな学部に進学し、将来どんな職業に従事したいかということも高校生時より検討することが大事と考えます。</p>
エ	<p>全員が学校行事や部活動に主体的に参加し活動するとともに社会に貢献する</p>	<p>○学校行事、部活動に積極的に取り組む生徒 90%以上</p> <p>○1部活1社会貢献活動</p>	A	A	<p>○約9割の生徒が、学校行事や部活動に積極的に取り組んでいるアンケート結果は、「質の高い文武両道」を目指す経営目標とよく一致している。部活動からは、良い意味での「世の中の理不尽さ」を学べるので、静高生にセルフコントロールや逞しさが身につくのではないかと。総合的にみて、高く評価できる。</p> <p>○このことについては、素晴らしい。まさに静高ですね。社会貢献も十分行われていることがわかりました。</p> <p>○文武両道を実施され、素晴らしい取組だと思います。</p>
オ	<p>読書習慣の定着と読書量の増大、図書館利用の推進を図る</p>	<p>○朝の読書週間 年2回実施</p> <p>○図書館開放 年300日以上</p>	A	A	<p>○224名の保護者ボランティアの協力の下、年間294日、図書館を開館したことは、年2回の朝読書週間の実施と共に、高く評価できる。</p> <p>○取組をよくしていることは評価できます。取組の目的と、方法論には工夫の余地があるでしょう。全国の図書館で直面している問題ですから、参考になる意見ややり方はいくらかもあるでしょう。問題は、どういう思想、目的で、他施設のやり方をを取り入れ、工夫するかでしょう。</p> <p>○概ね良好だと思いますが、生徒の中にはまだまだ読書週間が定着していない生徒もいるように思わ</p>

様式第5号

					れます。その対策をお願いします。 ○目標設定において明確なビジョンが必要と考える。
カ	生徒及び職員が心身ともに健康で過ごすことができる校内環境を整備する	○年度当初にアイスブレイク体験（職員・生徒）、学期1回以上の校内情報交換会の開催 ○健康観察を通しての情報共有 ○学習環境の美化に努める生徒の育成、学期に1回の安全点検	A	A	○相談室連絡会議を月1回程度開催するなど、関係各課の連携により、問題を抱えた生徒の情報の共有をうまく図ることができ、学校全体でよく配慮された指導が展開できた点は、高く評価できる。 ○職員の健康を守ってください。 ○心身ともに健康であることが大変重要であると考えます。これからはさらに充実を図ってください。
キ	職員の校内外の研修を充実させる	○「育てたい資質・能力」「カリキュラム・マネジメント」を意識した研修機会の充実	A	A	○リーダーシップ育成研修に全職員が参加するなど、研修課、保健課、教育相談の研修を計画的に実施できた点、不祥事根絶や県外の拠点校への学校訪問の情報共有など、職員が研修を積んで、深く理解を得た点は、高く評価できる。 ○①生徒のなかにある「育てたい資質・能力」を見抜き実際に育てる「カリキュラム・マネジメント」に基づいた研修機会の充実（生徒向け） ②生徒を育てる若い先生に内在する「育てたい資質・能力」を磨くための「カリキュラム・マネジメント」を意識した中堅以上の教師による研修機会の充実 両方ともお願いいたします。 ○もっと対外的な研修機会を増やして静高生らしい教育への取組が個性的になることを期待します。
ク	土曜オープンスクールの充実を図る	○中学生及び保護者等の土曜オープンスクールへの参加者数のべ1200人以上	A	A	○参加者が1,366人と目標以上であり、授業内容、ICT活用等を実際に見ていただけた点は評価できる。また、HPを一新して、中学生だけでなく、地域・同窓生にも重要な情報発信できた点も良かったのではないかと。 ○生徒さんのビデオはとてもよかった。 ○今後の少子化を考え、今まで以上に中学生に静岡高校の魅力を発信すべきと考えます。

					○学校案内の構成がとても良かったです。
ケ	校内外のプログラムの活用を通し、グローバルな視野の育成及び国際交流を推進する。	○参加生徒、教職員の視野の拡大 ○各種プログラム参加者の増加と意識の向上	A	A	○海外研修に参加した生徒の留学報告会、台湾修学旅行の研修報告書の作成など、事後指導も効果的に実施できた点は評価できる。 ○WWLなどの取組も充実していて安心しました。早くから外に目を向けるのも大切なことですね。 ○さらに生徒の個性を伸ばしていただきたいです。 ○積極的な生徒が多数出ていることは取組の成果であると思う。今後にも期待しています。
コ	「学校における働き方改革」に組織的に取り組む。	○働き方改革を意識した計画的な業務遂行 ○教育活動の検証、業務改善等、組織的改善の推進	B	B	○ますます増加する業務量に対して、教員の負担は増すばかりで、大変気の毒に思う。少しでも負担軽減に繋がるよう、さらなる工夫と知恵が必要だと思う。あきらめずに継続してほしい。 ○多忙な業務の中で、誇りと情熱を失わないようにしてください。生き生きと授業をする先生こそが、「高き」でしょう。そのためにも、雑務は思い切って処分して、慣例で行われていることを見直してください。 ○超過勤務に対する定期的なアラーム等を発して学校全体として働き方改革に取り組むことが必要とされます。さらには県教委等への人事増員要求等静岡県全体で対策を考える必要があると思います。 ○長時間労働を消滅できない旨の理由がいくつか挙げられたが、納得できる内容ではなかった。